

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

北山殿行事記 應永十五年三月廿

條

行事次第

儲御取御裝束儀

寢殿南面七之間當女屋御簾卷卷御簾階間

修理祓儲御輿寄掃部寮敷造道兩面等中

門南腋儲御輿宿宿方南達儲左右樂屋樂所

當日剋限公卿各着仗座

有召仰事

上首奉行

先織事下日時勅文仰之詞

次作御路

次仰留守人

參議一人 辨一人

次台外記下日時

其次作台作奉并御路留守等事

次台裝束司并仰御廳御裝束更

裝束司并不候者仰他并或不作之例有之

次衛府公卿已下并弓矢

次天皇出御南殿

因白候御裾

內侍二人候前後 鈕前 璽後

先出御帳東面有友用事

次令進立御帳前給

內侍進候左右 鈕左 璽右

此間諸口起陣座著靴襪迴宜陽殿東邊

次左次將渡西

次諸口列立南邊 北上東面

左大将渡階前進立接樹西願

次圓司卷

次少納言給奏

明日告勅答

次寄御輿

次將等檢知御座覆瓦次將副御輿云云將

御輿過前之時指副御輿到階下立

次御輿後次將云云上首役之昇自南階跪著云云

置弓用鞞戶進內侍前取御杖在御輿前

方跪本取取弓候

次天皇乘御

明日疊入御袴

此間大將發警蹕諸將應之

次同時進內侍前取鞞由御輿用鞞戶退下

此間諸口自平禰右外大將副御輿於中門

外暫留御輿大將進立御輿前作御總

次御輿進行

到于北山殿暫御扣四足下

神祇官獻大麻

諸口入門列立東方

御輿入中門之間樂屋發亂聲尋入打一室

夢各迎

次御輿寄南階

左右列立北上西面

內侍豫之左右

叙重將取御叙授內侍

次下御

大將發發言譯諸拍應之

開白候御裾

月將取重授內侍用鞞戶退下

次鈴奏

如出御之時

若入夜者有各得奉

次入御

其後經寢殿東廂入御常御取開白候御

卷

次諸口退下

次改御殿也裝束

撤御輿寄

宿階間供手敷御座經綯端疊東西

其上敷錦茵

階以西養子敷經綯端疊東西行

出座階以東敷日座為若云御座矣諸卿座

西上  
北面

次出御

園白作御公座

次主人出看座

次若云出看座

次諸卿看座

此間居主人御衝室

公卿役御陪膳役送四位殿上人

次若云御衝室并法口御室同居之

若云御前若入頭園白前五位若人自余殿

上五位六位役之

次供晴御膳懸盤六脚

上首公口勤仕陪膳役送末儀若人

人數不足之時  
再及便之

先陪膳數亦數

次中儀侍膳

次奉議持系御酒盃

銀器居折敷  
銀器盃末儀取之退下

上首公口取御酒盃進御前

次末儀持盃出純子

六日公御取御銚子進御前

次至上取盃給

次感御酒

次至三日若公給

若公起程御前致后候

至上飲御早白又感御酒賜若公若公指笏或侍帳中

賜御盃

此間御投入返銚子於本役人後座

次若公取御盃後座員男共藏人以番進彼

作去惡丁持末之由若人以持末去惡不居抄發

若公取之移入御酒邊賜銀器於藏人頭為

人以取之退下

次若公飲御早並去惡於座前取笏給先是

儀心起座下殿

次若公指降自南階向御取方拜踏御拜

卒昇自中門切嘉著御本座

次五位藏事取瓶子持帑若公取本去惡入之

感御撒巾藉人決身進流於御前不取續抄

六位藏事退下

次入御

闕白儀序

諸卿平伏

次主人入御

次卷官入御

信口自卜福退中

舞御覽儀

尚母屋廂御簾南面每間出衣

但御座向步階

東向石出之

廂階間敷絳綯端至二帖之上加御茵者

平發御座至御級御座傍又儲絳綯至二

帖同東向儲大文至東西北三方之迴屏風

階以東黃子敷絳綯至主人御座之東發

大文至右之御座其外東西敷御座為公

御座

以東向作人座  
以西向見御座

之末及透渡後圍座為形

作殿上人座

黃日刻樂屋發亂聲刺限節童參入

參向一曲

五位六位殿上人置管絃具

次出御簾中

次主人御著座

次若公清著座

次諸公府作殿上人亦著座

垣代上童殿上人亦拜以兼作中門廊

次左右樂行更向樂屋

次新童振拵

次舞伎如例

尤 万歲樂

賀殿

陵王

古鳥藪

長保樂

拍拵

納蘇利

輪臺

恒代各取及異

龍王賜祿

主役舞平自殿中被押出御衣若云紀清

座取之降南階三級白舞童

被懸祿書舞卷尤肩舞童退若云御

後座

納蘇利之時月賜祿



大臣取之總章童肩如先

次舞卒

次役人撤管絃具

次主上入侍

次主人入侍

次不作人等自下躬退下

見祀人月退下

晴御鞠儀

早且有御裝束事

其儀御殿南向七之間高御簾妻戶間黃子

一間切下之敷總綱為淨庭南面南庭東砌

儀細端為東西行為主人御座其東敷大文為

東西行為若公御座其東折南敷小文為南北

為大臣座對之部前敷小文為敷帖南面

其末座為末端為殿上人座東屏中門

南殿敷因座南西面有賀茂軍座南庭西砌

小文為敷帖東面為見祀座

剋限入之恭集

次主上出御簾中

御更衣

薄色御括貫

次賀歲軍署座

先有為拂

六位藏人置鞠 不付杖

次露拂人立懸下

不從時刻以之

次鞠是公卿是座

次殿上人著座

次主人被調淨具是淨者座也衣著

次若公同者座小若淨並衣二倍織物出括費

次六位藏人取露拂鞠退下

北面藏人又拍杖鞠言立便更而

次主上出御

圖白奉進候淨座

次著淨切板敷淨座

圖白復座

次若公被調申淨具是淨復座

可然殿上人持御具是奉後之拍淨前侍之

次禮代殿上人解鞠置懸中

次上八人立懸下

先主上次主人 次若公次主人隨白次并

進立

次主人御上鞠

次可也云云鞠次第蹴之上八人復然又立替

如常

次賀茂寧次才恭進

次事畢

次若公令撤主上御具足給御儀座如初殿

上人奉後之配御具足退下

次主上入御

御儀役如初

次主人入御

若公月入御

次云以下退下

三船御會儀

豫儀御船

管法御船  
置之具

浮池上

池邊儲遊燎

剋限法御以下恭進儀便真所

次主上出御釣殿

御被具  
御飯

後儲平敷御座

次寄御船於釣殿

六位入作可寄御船之中

主上兼御

主人同系御

次若公兼御

上童著御舟

次茅分系三船

挂男差杖出上

詩哥題出座被作之其儀斗也

御舟危迴御池

管絃畢請歌拾釣殿被禱之

晴和歌御會儀

小御所南面七步向卷御簾西第一間敷大文臺二

怡南北行為御座同第一間與敷小文臺東西行

為主人御座同端方敷同與著若公御座之

末奧端對座發同與著諸御座

剋限出御

次主人御出座

若公同御著座

諸御著座

次五位六位之殿上人持香文臺

御硯蓋

置御前入

夜之時先持香切燈臺移燈撤高燈臺

五位殿上人役之

次五位六位置拜讀師四座

次奉行祓事取集殿上人懷帛墨文臺上退

次公自下躬進懷帛

次若公自奉行人被墨懷帛

次依天氣讀師人着四座

次讀師依天氣自讀師禱師奉四座

次讀師自下讀師

奉議式 此間讀師依天氣自讀師禱師奉四座

次讀師披墨懷帛 文臺上

次讀師自下躬進之重平讀讀師奉下

次禱師讀上懷帛

次禱和致

殿上人 一及 納言奉儀 二及 大臣 三及

若公五及

次主人取出御懷帛令授讀師給讀師給之

御座遠之時 重平下懷帛上讀之七及禱師讀平

退下

次讀師自下懷帛於文臺下後座禱頭人依

作留作

次依天氣御製續師替著同座

次依天氣御製續師人

講師進著同座

次續師賜御製被墨文臺上後座

武懷中之

次入御

次至人若公同入御

次法口退下

次奉仍丸懷紙退

次奉役人撤文臺以下

行幸 三月八日

公卿 東希 染裝束

德大寺 元大将 公俊

太政大臣實時公息

三條大納言 公宣

右大臣實冬公息

花山院大納言 忠定

右大臣定通公息

帥中納言 兼宣

一位大納言仲光公息

水島中納言 俊泰

四條新宰相 隆重

大納言隆郷公息

三條宰相中將 公雅

別当 豐房

内大臣嗣房公息

西園寺大納言 實永

大納言三家公息

洞院大納言 實信

左大臣定公息

日野大納言 資藤

今出川中納言 實富

左大臣公以公息

勸修寺中納言 經豐

中山宰相 滿親

平大納言魏雅公息

今出川宰相中將 滿冬

大納言師冬公息

女納言

菅方菅方納言胡后

弁

富家俊 家房富家俊

次将

左

以中以中胡后 中内

宗量胡后 系系

次實教胡后 系系

右

雅光胡后 系系

隆夏 系系

隆夏

左衛門尉

明雄 坂上 姊小路判官

右兵衛尉

俊長 左兵衛尉 坊城納言俊佳子

右兵衛尉

知真 右兵衛尉 武者小路重次知真子

祿事

法性寺

親信胡后 三程親信子

定守胡后 系系

尹賢胡后 宰相香平子

三條中將

公賴胡后 実音子

雅秀胡后 系系

清房 九条左少将 氏房之子

菅原長政 言長胡臣子

源教仲 胡仲子

友用

在方胡臣 在弘胡臣子

舞御覽 二月十日

笙

御所作 世引車衣

若云 唐織物内指賣

山科中納言入道

宣備 中納言右女将 宣俊之子

藤原永基

家俊 指右中弁奉行 家房之子

吉田

香河表衣袋

北山殿

花山院大納言

希九兵衛

教真胡臣 左樂行事 内廷从

基親胡臣 右樂行事

教有胡臣 右樂行事 山科女将

長資 德宗路内侍

宋量 奉行 以中侍

地卜人 舞装束

定秋

氏秋

豊原家秋

月益秋

藤秋

為秋

同幸秋

向教秋



田葛秋

集策

<sup>表</sup>合少宰相仲均 帝子若

<sup>表</sup>魚英 楊梅中將

月季長 日

笛

<sup>表</sup>治部 教遠

滿季胡后 洞院中將

教高 <sup>表</sup>山狩少将

地下人

景房

大神景親

日系廣

日系孫

琵琶

<sup>表</sup>萩原宮 景仁親王

<sup>表</sup>孝繼

筆

<sup>表</sup>柳尾宮 義仁親王

季俊 日

<sup>表</sup>兵部 揚梅

<sup>表</sup>安倍季英 新裝本

綾小路二位 信俊

實 日 揚少将

景秀

日景秋 清

日系勝

右大臣

孝長

實秀胡后

季保 日

實秀胡后

季保 日

實秀胡后

季保 日

實秀胡后

卷一

卷一

表 着座

園白

落名指貫紅表

内大臣

附中納言

恒代上童女入之内公方所祝拾人将衣緒  
心祝吹上人被成公方祝被衣之

白 龙大臣

日野大納言

御賀

岩壽

梅賀

坂壽

春祇 以上五人  
全相

長壽

都壽

八代賀

抄若

春愛

自諸門跡上人将襖上緒袖金銅

尊楊 梶井

若增 青蓮院

玉壽 月

永童 月

如意壽 妙法院

岩壽 日

聖德 聖護院

竹若 日

愛子代 三寶院

岩根 素院

同恒代殿上人十人

雅濟 皇井中納言  
今令子 朝臣

隆豊 御尾中納言  
隆教子

實卿 公音子

英 揚梅三佐  
孟邦子

内教子

教豐

活佛以教志子

教高

勸修子中納云後豐子

經真

考德胡氏子

考長

持教 教冬子

舞童

大案院方右

晴若

烈舞兒人

滿日

春子代

榮玉

廣揚中納云子

資光

柳原納云及清孫子資衡也

行光

万里小納内符入乃子

時房

伯三資子

資雅

早中納云 季俊 實子

中車衣 白織物也指黃澤也

若公

由大臣

花山院大納云

花山院大納云

資家

殿上人

豐光 吉持系指費

長遠相后

家敦相下 難波女將

菅原長政

賀茂軍

由衣

龙大臣

吉持系指費

日野大納云

相馬井中納云入道 實雅

中山宰相

衣冠

基親相后

隆光相后 武者小治右大臣

雅清相后 實子并少将 解鞠

卷三十六

夏平 縣主

日 延久

日 仲久

日 室久

見證

園白

洞院大納言

別當

御立

日 重家 縣主

日 助久

重基

沙弥常貞

西園寺大納言

仲中納言

三月十八日

紫米如昨日

北山殿

春代

善藤

右衛門

地久

長保樂

細藤利

一宗院方丸

尊藤

烈舞兒六人

幸増

善福

春日

古鳥藪

柏梓

古鳥藪

古鳥藪

古鳥藪

古鳥藪

古鳥藪

市菊

春福

春慶

後王一人

龜石

九舞

善殿樂

賀殿

陵王

御鞠 二月七日

御車衣 内指費 爲云 爲云

幸福

幸友

善海波

太平樂

射會 内指費 爲云

如山殿

上鞠

若公

日野大納言

藤中納言

豊光朝臣

雅活朝臣

賀茂紫

常貞

魚久

仲久

内大臣

藤中納言入道

中山宰相

宗教朝臣

菅原長政

重家

重久

三船御會 二月廿日

御詩題池菖花照宴

園白

坊城一位入道

仲中納言

勸修寺中納言

式部大輔

類者

別當

長方胡后

俊長

内房

長頼

家俊 奉行

御奇類池邊鶴

御製

北山殿

若公

三條入右大臣大臣

右大臣

内大臣

左大将

日野大納言

花鳥中納言入道

豊光

雅清右大臣

宗量

奉行

管絃

笙

清原作

北山殿

若公

花山院大納言

教奥胡后

経良右大臣

教孝

儀禮

兵部

兵部

治部

民部

右大臣

筆

義仁親王

大教

和哥法會

御製

若公

三條太政大臣入道

右大臣

左大臣

日置大納言

河院大納言

日置新大納言

勸修寺中納言

日榮新宰相

儀禮

兵部

兵部

治部

民部

右大臣

筆

義仁親王

大教

和哥法會

御製

若公

三條太政大臣入道

右大臣

左大臣

日置大納言

河院大納言

日置新大納言

勸修寺中納言

日榮新宰相

儀禮

兵部

兵部

治部

民部

右大臣

筆

義仁親王

大教

和哥法會

御製

若公

三條太政大臣入道

右大臣

左大臣

日置大納言

河院大納言

日置新大納言

勸修寺中納言

日榮新宰相

三原宰相中將

實秋朝臣

宗量朝臣

經良朝臣

公賴朝臣

尹實朝臣

雅清朝臣

今小原宰相中將

豐光朝臣

公種朝臣

基親朝臣

為威朝臣

實秀朝臣

春侍行幸北園同賦池臺

花照宴一首 以春為韻

園日藤原經嗣

池上樓臺 宸宴新花移

玉座常清 千紅彩

紫皆榮 交結 有 互 頽

不老春

祐高

歌臺 欽 水 玉 池 新 花 擁 子 官 法 管 頽

龍 鷁 忽 浮 天 樂 殿 恩 光 餘 者 霧 中 春

大宰權帥藤原為宣

池 板 大 浪 水 子 塵 佳 境 風 涼 可 步 法



宸宴初開臺閣上祀明玉座德馨新

控中納言藤原經量

花擁高臺淨苑新混同回海一池春

方舟雅頌得宜所類奏德音地氏

式部大輔菅原秀長

玉樹遠臺花照人玉條海鏡窈窕新

任地樓臺池邊景日月長留仙城玉

左衛門督藤原豐房

池上賞花陪御宴臺前明月照胡紳

衫袍載出笙歌弘正星蓮瀛洲起雲

女納言藤原長方

仙臺池上瑞光新波暖風和舞妓展

宸宴熙然多感事方舟逸奏太平云

藏入權右中辨藤原家俊

日之宸遊用多新百祀業之大平辰

臺池水暖息波潤寫得瀛洲蓮蕊雲

左兵衛佐藤原俊長

池上玉臺相映新总明淨苑照芳辰

彩舟載得太平曲初見蓬萊第歲春

大内記菅原長賴

曾臺綠閣映池新花照宸遊際乞辰  
此池更移仙境系管絃多奏万多  
觀臺始見昇三閣池系移來二鶴  
舞心德音明玉座聖慈慈法是多年新

春侍行幸北山園同詠池邊

和歌

常忠

わが浦もふ代あり

きつりあふさきこはこく

能くともや池より歩

むねを

右大臣藤原公行

みよゆく池のほとりあひ鶴の友もあはれ法をさる

内大臣藤原満基

池水小を流るる入るはるはるあふあふの志をむ

左近衛大将藤原公俊

あふあふ池のほとりあひ鶴の友もあはれ法をさる

権大納言藤原重光

以筆水其々々其其其友はるい子代もらういはうい位部

権大納言藤原忠定

考要の故書より出さるる好書なり其の書とすはるいあは

権大納言藤原資藤

此の故書より出さるる好書なり其の書とすはるいあは

朱雅

いけおれまの田鶴のいけおれまのいけおれまのいけおれま

権中納言藤原部心春原春

いけおれまの田鶴のいけおれまのいけおれまのいけおれま

常永

いけおれまの田鶴のいけおれまのいけおれまのいけおれま

左大弁藤原豊光

いけおれまの田鶴のいけおれまのいけおれまのいけおれま

右大弁藤原宗量

いけおれまの田鶴のいけおれまのいけおれまのいけおれま

左近衛権中納言藤原雅清

いけおれまの田鶴のいけおれまのいけおれまのいけおれま

詠花契系年

傳奇

いけおれまの田鶴のいけおれまのいけおれまのいけおれま

なすりしはさしはら

経じうせも成はる

有るは

沙門道一

美代と其のり一也と今より一美代は

源義嗣

美代と其のり一也と今より一美代は

関白藤原経嗣

美代と其のり一也と今より一美代は

美代と其のり一也と今より一美代は

万代と其のり一也と今より一美代は

尤大臣友宗忠嗣

美代と其のり一也と今より一美代は

右大臣友宗行

美代と其のり一也と今より一美代は

内大臣藤原満基

美代と其のり一也と今より一美代は

左近衛大将友宗俊

美代と其のり一也と今より一美代は

権大臣友宗実宗

春三

三

雲井也ことと数り...  
 推大納言藤原光日野  
 推大納言藤原宣二条  
 推大納言藤原信洞院  
 推大納言藤原忠定  
 推大納言藤原資藤日野

上り...  
 兼雅 兼善

家物も...  
 推大納言藤原...  
 推大納言藤原...  
 推大納言藤原...  
 推大納言藤原...  
 推大納言藤原...

春三

三

いふ春もうらぬら成るは侍の申事からと侍は下りけ

春後谷系満親中

弟代を若中う侍ふ初と侍もとより初めよりみよとく

春後右近清隆中の春系中の雅

見ぬめなり成るは侍も方代りも志と侍りも思はせ侍り

春後左近清隆中の春系中の雅

よき侍候とくを侍り侍は下り侍り侍り侍り侍り侍り

春後左近清隆中の春系中の雅

万は侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

春後左近清隆中の春系中の雅

侍候とくを侍り侍は下り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

春後左近清隆中の春系中の雅

君代又侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

春後左近清隆中の春系中の雅

心も侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

春後左近清隆中の春系中の雅

心も侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

春後左近清隆中の春系中の雅

心も侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

春後左近清隆中の春系中の雅

卷三十一

笑中... 散位... 美代... 今... 可代... 上... 類者

民部... 講師... 宗量... 讀師... 右大臣... 卜讀所... 中... 御... 民部卿... 談師

関白

賤何路連歌

應永十又三十一  
行幸北山殿所會

山多此も余りし先程行り乳

風急おとす侍らふ川代も 去

らるるふ成威久しき世をいんく

こ紀をふく松のあらぬしこ

うはまけしけりしうらあ水目

そす赤らふと縁乃くさる

戸内へあまをいんくもふこして

北山後

若公

内大臣

日隆大納言

次策  
高亮等

月臨等

なごも志のふもやあく絶

浦く此後もこころ程うに

くもこのよまゆと松濱川

夕暮八月と余えりしをこそ

そりけあふにちる義麻乃 音

ふもや縁あふらとそらみ

ゆら系乃このまをすくふ

無そりし対ふも入つてさるり

あこぬちし流りしは成志うし

たあしそらさむりりことおけ

別当

平賀下

長頼

北

日

月

内大

日

冷泉



りしやいふなきをさるるの中  
候しこはせぬらりいふくさま  
音家乃あつたあふれ山いづ  
えららあ日新や志りいづる  
珠の倉とぬりりいひ乃い  
垣とくご海に浅さくあふ  
波と魚をこやう舞の意とよ  
海あつた雲ら何れいづら  
くさくせえ揺る雲乃一ひら  
風あうくらさるた久ぬたの友

長頼

北

月

若云

水

長頼

月

本質

水

あらうなりとけりたれ飛出乃雲  
うせめとせ月やうらうくおぬらむ  
意くせ海を春のありう孫  
雷とまのち死ぶうり消うを  
らあふうなりとれきくぬ若川  
浪津瀬乃とあひあふ少く  
ことありけりあうふうと橋  
薪少家志うう経日書うめ  
雲れうとくはれひら雨  
松原を月色をあう守吹を月

あ云

月

日

別當

吟

月

内

費

北

山よりや先秋し〜

長頼

いかに勢をゆるしに〜

日

まゝにわかれし時〜

別當

いそぐるや様〜

月

あつと〜ぬも今日〜

泣

あくあ孫より〜

内

あ〜ふれ〜

水

浦里乃〜

月

去〜

あ

あ〜

水

あ〜

内

あ〜

日

あ〜

泣

あ〜

月

あ〜

日

あ〜

内

あ〜

日

あ〜

日



うとみと山成きくく花なをせ  
 縁ぬめらぬたりのきとるこは  
 和のしる今を及たき後よ  
 波乃の海日次をすくあり  
 この浦のけくちのりあり  
 春を又言れもよてや曇ら森  
 切らち水山そきくあり多か  
 く道端のむもよむの志り  
 至ハあまきこにう捨るかちひら  
 病むふ袖もや秋の志くまら

別 日 月 内 月 内 月 内 月 内 月

うつふとをのりきくく花なをせ  
 うほらあす床をのりく月出く  
 福もきくくく屋のき死くあり  
 祐あり次人の愛ゆもあひもて  
 身をぬめらぬこぬ日なくと先と好る  
 奥とく申やたひよあふあはれ  
 あうき情とす急もかりうは  
 あはれより此程うなともかりて  
 いなじえひる久次戸の山とせ  
 浪をせれきくく海の静よく

別 日 月 内 月 内 月 内 月 内 月

しうふ清つとてお返さすく 子

いふ代を後とせりくとりてん 冷

君とていんとれちちとつと絶じ

御製 十六 別書 十

北山後 八 尹賢約 六

若公 三 長頼 七

内大臣 十三

日野大納言 十五

定家宰相入道 九

月滿宰相入道 十三

賤何東連袂 應永十六年三月一日  
行幸北山殿法會

千代 まろと花を  
行幸北山殿法會

松 ふささうと  
まともさうと

月 あふと  
あはれ

尸 あふと  
あはれ

舟 あふと  
あはれ

ひ あふと  
あはれ

河 あふと  
あはれ

山 あふと  
あはれ

卷三十一

昔新ら未だ望や燕城より花

平次物語

新まくに輝き、はくは旅乃を

元花

くまをわすくかちふ園の戸

長頼

け束まや明くはふる鳥鳴く

白壁

そく一と成りあはむよこく母

月

くく積つる跡やあけは成ぬらむ

北

あらし走乃言及まのをたしと

北

山まは小藤の道をいづるつ

内

里まけさる旅言はしを宿

基

くれ葉はまじ入もあく世におく

葉小ら花時り氏表ゆれは

別

山はあく若らむくはまは

水

おと浦を波りし舟をたしと

水

口方れ海をたし合とくは

月

いはく乃園をたしあは

元花

里くはあふうとあは

元花

とけあまの月はくかち

元花

日まはあまの月はくかち

元花

燈下しはく入を乃

元花

卷三十一

元花

萩とたつひとてとくもあは  
ぬこれ物端あはれ月あは  
きひ終乃終るにありひしは終る  
身光とな成去来とふ物を  
終終とぬしつと終るまはた  
うらと進人乃まはとぬ言る  
と終るといふ中此い法ら  
にあり世ふあるとあり終る  
うらやと終るにありうら  
あはれとぬしつとありに  
終る

水 日 内 基 月 尹 冷 別

色このとてと終 橋此 去 ぬ  
出ふ目終る終るあり終るあり  
山乃終る終るう 雲のう終る  
半らハそれと終るぬ 富士終る  
ことと終るも終るむし終る  
妹也このと終る 月終る終る  
あはれと終る 終る 終る  
終る 終る 終る 終る  
終る 終る 終る 終る  
終る 終る 終る 終る

水 内 月 終 終 終 終

恨もよらむ程乃者あはれと  
 別りぬとてはと先をくはし  
 旅乃言扱つ人のよもあはれ  
 なるはれとてな成る泊船  
 去来此もはれとてすはれと  
 浪まのふくはれとてすはれ  
 雲針をあらはしはれとて  
 やくはれとて晴れとて雨  
 入と音屋をあらはれとて

別 元 日 基 月 別 基 日 基

親と久しくはれとて冬さく  
 しのはれとてあはれ程もはれ  
 かりふもはれとてあはれと  
 向と音屋をあらはれとて  
 とりとてはれとてあはれと  
 身とてはれとてあはれと  
 ぬれとてはれとてあはれと  
 山里とてはれとてあはれと  
 松とてはれとてあはれと  
 春めとてはれとてあはれと

基 日 元 内 心 手 心



春乃こぞの此松をいつくし  
 分てたあは夕魚のややあらし  
 へさしにききり日あう水く  
 すとぬきいさやみく酒を無味  
 山うめらあう久きとと海去  
 雲ハたのそ浪をあらわえ  
 けりきふをそとましくら  
 娘さぬと奈乃難れ花も  
 袖さぬと奈乃難れ花も  
 ゆふ芳れと終まふを月と

元 日 月 内 日 基 水

雲はしああるはとまきうし  
 山らう紀里おや麻のけふ  
 きくううらとと悲れあくと  
 夫のまにあう終果ぬ世ら  
 めてはくくうらやと  
 けり中情もととあふを  
 うはりやととととととと  
 今朝ら里とはた心の  
 柳乃眉やまふ  
 せりあうととととととと

内 水 日 月 水 日 内

いもふ正月そら〜浅くぬふ  
 時と日これと南のゆ〜とひくま  
 きて〜ま乃う様よ〜こ記  
 る人乃腕あらぬ〜せちあそ  
 めふ〜とめぐ〜惟も〜と次  
 今身〜と紀月に我身の〜と  
 玉〜とゆら〜松乃葉たつた  
 うり〜わのつら〜や風〜と  
 志〜と心法〜ハ秋〜と  
 今や〜と〜松乃〜と  
 元 長 尹 冷 月 基 水 別 内

御製 十六 基親羽長  
 小山 十六 別高  
 若公 一 尹賢相長  
 内大臣 十 元春  
 日置大細云十 長頼  
 月攝宰相合九  
 冷泉宰相合八  
 三月十日 御進物多々西出前  
 元 月 六 七 七 九 三

御繪三幅

和尙 月湖親音

御繪四幅

方盆

金香爐

鷹頸

金花瓶

御盆

金臺

火淨

卓

麝香

御硯

盆

筆架

水入

水花瓶

又

水筆

平籠

御刀

銀鶴頸

銀盆

水盆

水盂

臺

香品

食籠

方盆

香點臺

水盆

花瓶

卓

系魁瓶

水盆

大花瓶

風鈴

水香品

水巾

一全慶福

卷三

シワシセウ 一

皿食籠 一

皿茶碗 一

己上

東洋茶

御飯 一

十カウ 廿

卓 一

銀色 一

泉袖 廿

皿酒海 一

皿

皿

皿

皿

皿

金網 十版

砂盤 百両

皿料足 字貫

卷三



